

企画展のご案内

そうでいしゃさいこう
走泥社再考ぜんえいとうげい
前衛陶芸が生まれた時代

1948年に八木一夫^{やぎ かずお}、叶哲夫^{かのうてつお}、山田光^{やまだひかる}、松井美介^{まつい よしすけ}、鈴木治^{すずきおさむ}の5人で結成された陶芸集団「走泥社」は、その後、同人の入れ替わりを経ながら半世紀にわたり、日本の陶芸界を牽引してきました。彼らの活動を見渡した時、その革新性が特に前半期に認められることから、本展では、走泥社結成25周年となる1973年までを主な対象とし、同時期の四耕会^{しこうかい}など時代を担ってきた当時の他の作家作品も加え、前衛陶芸が生まれた時代を振り返ります。



八木一夫《ザムザ氏の散歩》1954年
京都国立近代美術館蔵

展覧会名	走泥社再考 前衛陶芸が生まれた時代
会場	岐阜県美術館 展示室 3(岐阜市宇佐 4-1-22)
会期	令和5年12月19日(火)－令和6年2月18日(日) 午前10時－午後6時 ※休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日) ※夜間開館：令和6年1月19日(金)、2月16日(金)は午後8時まで ※展示室の入場は閉館の30分前まで
料金	一般 1,000(900)円 大学生 800(700)円 高校生以下無料()内は20名以上の団体料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証の交付を受けている方およびその付き添いの方(1名まで)は無料
主催	岐阜県美術館、中日新聞社
特別協力	国立工芸館
企画協力	京都新聞

本資料に関するお問い合わせ



〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

TEL 058-271-1313(代表) FAX 058-271-1315

URL: <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>広報担当：後藤正行
担当学芸員：齋藤智愛県美術館
Webサイト

美術館の情報を発信しています



公式Facebook



公式Instagram



公式X(Twitter)

E-mail: kouhougifukenbi@govt.pref.gifu.jp

本展覧会について

1948年に八木一夫、叶哲夫、山田光、松井美介、鈴木治の5人で結成された走泥社は、その後、会員の入れ替わりを経ながら50年間にわたり、日本の陶芸界を牽引してきました。走泥社は宣言文に「我々の結合体は、“夢みる温床”ではなく、まさに白日の下の生活それ自体なのだ」と記したように、戦後という時代を真摯に見つめることで、土による新たな造形を模索するところからスタートしました。走泥社という団体の功績について一言で述べるとすれば、いわゆる「オブジェ焼」を世間に認知させたということになります。

本展は走泥社の活動に焦点を当て、その意義や意味を再検証するものですが、50年という走泥社の活動期間全体を見渡した時、日本陶芸史におけるその革新性は特に前半期に認められます。1960年代半ば以降、例えば1964年の現代国際陶芸展を皮切りに海外の動向が日本でも紹介されるようになり、走泥社が時代の中で有していた「前衛性」は次第に相対化されていくからです。そこで本展では、走泥社結成25周年となる1973年までを主な対象とし、走泥社と同時期に前衛陶芸運動を展開した四耕会など彼らに影響を与えた走泥社以外の作家等も加え、前衛陶芸が生まれた時代を振り返ります。

展覧会の見どころ

■解散後初となる本格的な走泥社回顧展

走泥社活動期間の前半に限るとはいえ、八木一夫、山田光、鈴木治という創立メンバーと共に活動した同人による走泥社の多様な活動を紹介する初めての試みです。走泥社は同人の増減を繰り返しながら活動を続けてきましたが、今回は1973年まで一時期でも走泥社に参加した作家の内、32名の作品および関連資料を紹介します。

【本展出品の走泥社作家】

かどいよしえ かとうたつみ かながえかずたか かのうさとし かのうてつお かわかみりきぞう かわしまこうぞう くまくらじゆんきち こにしはるみ こんどうきよつぐ
門井嘉衛、加藤達美、金ヶ江和隆、叶敏、叶哲夫、川上力三、河島浩三、熊倉順吉、小西晴美、近藤清次、
さきやまたたやす さとうさとし さとなかひでと すずきおさむ たかのもとお たなべあやこ つじかんじ てらおこうじ とばよしまさ なかじまきよし
笹山忠保、佐藤敏、里中英人、鈴木治、高野基夫、田辺彩子、辻勘之、寺尾悦示、鳥羽克昌、中島清、
はやしひでゆき はやしやすお ひとみまさつぐ ふじもとよしみち ますだよしのり みどりかわひろき みやながりきち みわりようさく もりさとただお やぎかずお
林秀行、林康夫、人見政次、藤本能道、益田芳徳、緑川宏樹、宮永理吉、三輪龍作、森里忠男、八木一夫、
やまだひかる よしたけひろし
山田光、吉竹弘

■パブロ・ピカソやイサム・ノグチ。同時期に前衛陶芸活動を展開した四耕会の作品も！

当時の陶芸界に影響を与えたパブロ・ピカソやイサム・ノグチの作品、また、同時期に前衛陶芸を牽引した四耕会、そして陶彫の辻晋堂つじしんどうや「現代国際陶芸展」(1964年)の出品作家など、走泥社以外の団体や作家も一部交えつつ、前衛陶芸が生まれた時代を振り返ります。

【本展出品の四耕会作家】

うのさんご おかもとそくろく しみずういち すずきやすゆき なかにしよしかず はやしやすお ふじたはしめ みうらしやうご
宇野三吾、岡本素六、清水卯一、鈴木康之、中西美和、林康夫、藤田作、三浦省吾

【その他本展出品作家】

つじしんどう もりのひろあき やなぎはらむつお
辻晋堂、森野泰明、柳原睦夫、イサム・ノグチ、ケネス・スターバード、ニーノ・カルーソ、パブロ・ピカソ、ハワード・コトラー、ハンス・コパー、ピーター・ヴォーコス、ルース・ダックワース、ルーチョ・フォンタナ

■ 展覧会構成

第1章 前衛陶芸の始まり 走泥社結成とその周辺(1954 年まで)

敗戦により、価値観が大きく揺らいだ時代、戦後まもない京都で叶哲夫、鈴木治、松井美介、山田光、八木一夫の5人が「走泥社」を結成しました。走泥社は特別な規則や方向性を有した団体ではなく、多様な考えを持つ人材が集まり、前衛という意識のもとで活発な制作活動を行いました。陶芸界の伝統的な規範から距離をとりつつ、外的な影響を受けながら自身の心象風景を表現するところに、あるいは陶磁器が持つ造形要素を現代の造形言語に昇華させようとしたところに当時の走泥社の前衛意識をみてとることができます。同時期に活動した「四耕会」や当時の陶芸家の仕事に大きな影響を与えたパブロ・ピカソやイサム・ノグチの作品もあわせて展示します。この時期の前衛陶芸界は、陶芸家たちが器物形態をいかに現代的な立体造形として自立させていくのかを模索する時期と言えるでしょう。



八木一夫
《ザムザ氏の散歩》1954 年
京都国立近代美術館蔵



林 康夫
《雲》1948 年
京都国立近代美術館蔵

第2章 オブジェ陶の誕生とその展開(1955—1963年)

50年代後半になると、走泥社以外で活動していた有力な陶芸家が走泥社へ参加し、前衛陶芸家集団としての走泥社の骨格が固まっていきます。当時のメンバーの写真なども展示してあり、活動が活発化していたことがうかがえます。走泥社同人を中心に「時代の意識」に根差した陶芸作品を展示するとともに、走泥社同人と交わりながらも陶彫を制作し、立体と空間という彫刻の造形言語を追究した彫刻家の辻晋堂の作品も紹介します。



鈴木 治
《土偶》1963 年
京都国立近代美術館蔵



辻 晋堂
《時計》1956 年
京都国立近代美術館蔵

第3章 「現代国際陶芸展」以降の走泥社(1964—1973年)

「現代国際陶芸展」は、東京オリンピック開催を記念し全国4会場を巡回して行われた日本で初めて開催する本格的な国際陶芸展でした。走泥社にとって大きな転機となる出来事となり、彫刻家の柳原義達^{やなぎはらよしだつ}は「藝術新潮」に「日本陶芸の敗北」というエッセイを寄稿するなど日本の陶芸界に対しての自己変革を促すものとなりました。

この時期の走泥社は、草創期の同人と若手作家とがバランスよく併存し、最も充実した時期でした。心象風景の表象から始まった陶によるオブジェが、さらなる自己検証を行うことにより「前衛性」が相対化し、個々人の造形表現として成熟と拡張を見せ始めた時期でした。



三輪龍作
《愛の為に》1968 年
国立工芸館蔵



山田 光
《1の周辺》1976 年
岐阜県現代陶芸美術館蔵

■ 関連プログラム

■ 講演会

「今、なぜ走泥社なのか」

日 時:2024 年 1 月 27 日(土)13:30-15:00

会 場:岐阜県美術館 講堂

講 師:大長^{だいちょう}智^ち広^{ひろ}(京都国立近代美術館主任研究員・本展企画者)

備 考:聴講無料、事前申込み不要、定員 170 名(先着順)

■ 美術講座

「走泥社とその時代 vol.1」

日 時:2024 年 2 月 3 日(土)13:30-15:00

会 場:岐阜県美術館 講堂

講 師:齋藤^{さいとう}智^ち愛^{あい}(岐阜県美術館学芸員)

備 考:聴講無料、事前申込み不要、定員 170 名(先着順)

■ 美術講座

「走泥社とその時代 vol.2」

日 時:2024 年 2 月 10 日(土)13:30-15:00

会 場:岐阜県美術館 講堂

講 師:正村^{しょうむら}美^み里^り(岐阜県美術館副館長兼学芸部長)

備 考:聴講無料、事前申込み不要、定員 170 名(先着順)

■ ギャラリートーク

日 時:2023 年 12 月 23 日(土)14:00-14:45

2024 年 1 月 7 日(日)14:00-14:45

会 場:岐阜県美術館展示室 3

備 考:要観覧券、事前申込み不要

■ 夜間開館ギャラリートーク

日 時:2024 年 1 月 19 日(金)19:00-19:30

2024 年 2 月 16 日(金)19:00-19:30

会 場:岐阜県美術館 展示室 3

備 考:要観覧券、事前申込み不要

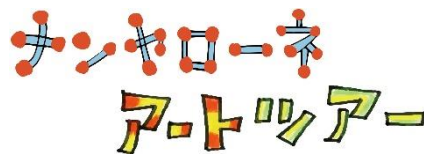
■ナンヤローネ アートツアー

日 時:2024 年 1 月 21 日(日)14:00-15:30

会 場:岐阜県美術館 多目的ホール、展示室 3

備 考:要事前申込み 要観覧券

詳細は、岐阜県美術館ウェブサイトでご確認ください。



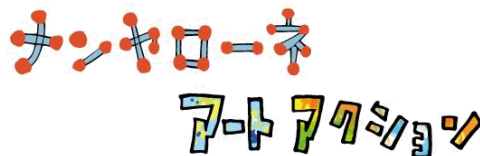
■ナンヤローネ アートアクション

日 時:2024 年 2 月 4 日(日)13:30-15:30

会 場:岐阜県美術館 多目的ホール、展示室 3

備 考:要事前申込み 要観覧券

詳細は、岐阜県美術館ウェブサイトでご確認ください。



■パイプオルガン定期演奏会

日 時:2024 年 2 月 11 日(日・祝)14:00-

会 場:岐阜県美術館 多目的ホール

備 考:参加無料



■ 同時開催

◆「ルンドンコレクションから:黒との会話」

2023 年 9 月 20 日(水)- 2023 年 12 月 24 日(日)

◆「さかのぼり岐阜洋画史 大正・明治編」

2023 年 10 月 11 日(水)- 2024 年 12 月 24 日(日)

◆「林武史《石間》 安藤基金コレクションから」

2023 年 10 月 11 日(水)- 2024 年 12 月 24 日(日)

◆「フォルムーやきものから」

2023 年 11 月 14 日(火)- 2024 年 3 月 3 日(日)

◆「ルンドンコレクションから:聖アントワーンの誘惑」

2024 年 1 月 5 日(金)- 2024 年 4 月 7 日(日)

◆「フランスに渡った日本人画家」

2024 年 1 月 5 日(金)- 2024 年 3 月 31 日(日)

◆「アートまるケット」

2024 年 1 月 13 日(土)- 2024 年 3 月 17 日(日)



岐阜県美術館 企画展

走泥社再考 前衛陶芸が生まれた時代

広報画像貸出申込書

FAX 送信番号:058-271-1315



貴社名		ご担当者名	
媒体名	(掲載コーナー、特集名:)		
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL:	FAX:	
	E-mail:		

1. ご紹介いただける場合、貴媒体の情報をお知らせください。

掲載/放送	月	日	発売・放送(月号)/発行部数	部
掲載内容				

2. 広報画像はご使用になりますか。

☐ はい 画像データ到着希望日(月 日) ☐ いいえ(写真は使用せず、文字掲載のみ)

3. 別紙の写真をご参照の上、ご希望の【画像番号】にチェック☑してください。

下記キャプションの作品名称、所蔵を必ずご記載ください。

☑	番号	ご掲載時のキャプション表記
☐	①	八木一夫《ザムザ氏の散歩》1954 年 京都国立近代美術館蔵
☐	②	八木一夫《二口壺》1950 年 京都国立近代美術館蔵
☐	③	林 康夫《雲》1948 年 京都国立近代美術館蔵
☐	④	山田 光《作品》1957 年 岐阜県美術館蔵
☐	⑤	辻 晋堂《時計》1956 年 京都国立近代美術館蔵
☐	⑥	森里忠男《作品》1957 年頃 個人蔵
☐	⑦	鈴木 治《土偶》1963 年 京都国立近代美術館蔵
☐	⑧	柳原睦夫《作品》1963 年 京都市美術館蔵
☐	⑨	熊倉順吉《風人'67》1967 年 京都国立近代美術館蔵
☐	⑩	三輪龍作《愛の為に》1968 年 国立工芸館蔵
☐	⑪	鈴木治《天馬横轉》1973 年 岐阜県現代陶芸美術館蔵
☐	⑫	山田光《1の周辺》1976 年 岐阜県現代陶芸美術館蔵

■広報画像一覧

①



八木一夫《ザムザ氏の散歩》1954年
京都国立近代美術館蔵

②



八木一夫《二口壺》1950年
京都国立近代美術館蔵

③



林 康夫《雲》1948年
京都国立近代美術館蔵

④



山田 光《作品》1957年
岐阜県美術館蔵

⑤



辻 晋堂《時計》1956年
京都国立近代美術館蔵

⑥



森里忠男《作品》1957年頃
個人蔵

⑦



鈴木 治《土偶》1963年
京都国立近代美術館蔵

⑧



柳原睦夫《作品》1963年
京都市美術館蔵

⑨



熊倉順吉《風人'67》1967年
京都国立近代美術館蔵

⑩



三輪龍作《愛の為に》1968年
国立工芸館蔵

⑪



鈴木治《天馬横轉》1973年
岐阜県現代陶芸美術館蔵

⑫



山田光《1の周辺》1976年
岐阜県現代陶芸美術館蔵

【広報画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります。
- 展覧会名、会期、会場名は、必ず掲載してください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなどの画像の加工・変更はできません。
- 転載などの2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードをしてください。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープ・DVD等を、岐阜県美術館へ1部お送り願います。
- 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は岐阜県美術館までご連絡ください。